

## I 小野・矢彦神社社叢林の概観と自然環境

小野・矢彦神社社叢林は、勝弦山(1,129m)から南北に伸びる尾根と、霧訪山(1,305m)の尾根にはさまれた谷部をはしる国鉄中央本線小野駅の北方約1km, 長野県上伊那郡辰野町, 宮の前に所在している。面積は36,747m<sup>2</sup>のほぼ方形状の境内林である。

小野・矢彦神社の後方には石灰岩を母材とする霧訪山(1,305m)があり, この山塊から南東に派生する川鳥沢の扇状地斜面上に位置している。神社境内は国道153号に面する神社正面部がもっとも低く, 標高828mである。神社の裏手にあたる山腹側が839mで, 神社境内の奥行約200mに対して約10mの比高差がある。しかも, この小野・矢彦神社は扇状地形の末端部に位置し, 伏流する地下水が境内で湧水している。この湧水の一部は矢彦神社の南入口にある「水屋」に引かれ, 神水として利用されている。また社叢林内に湧水してくる水を利用して, 小野・矢彦両神社にそれぞれ2個づつ池が作られこの池に導かれている。

この小野・矢彦神社の社叢林は大径木が密生しており, 植栽木も含めて, 樹林とその立地の自然の状態が比較的良く保たれている。したがって, 昭和35年2月, 長野県指定の天然記念物として, 保護されている。天然記念物指定の理由として以下の点があげられている。

- 人工林で占められる周辺地域のうち唯一の天然林に近い混交林である。
- 林床植生が豊富で今日周辺地域で見られない山地生植物が生育している。
- 当地方の古い時代の植物相を代表するものとして学術上貴重である。

小野・矢彦神社社叢林は, 樹高30m以上に達する高木層にヒノキ, スギ, サワラ, モミ, カヤなどの針葉樹類が過半数を占めている。また本数としては少ないが, 大径木のケヤキ, コブシ, ミズナラ, エゾエノキ, オオモミジ, オニイタヤ, ミツデカエデ, ケンボナシ, カツラなどの夏緑広葉樹類が混生している。しかし, これらの夏緑広葉樹類は本数こそ少ないものの, 林冠を広く拡げており, 社叢林を遠望すると針葉樹, 広葉樹の混交林に見える(Phot. 1)。低木層にはヒノキ, サワラなどの植栽木も多い。しかし, アブラチャン, ミヤマハハソ, カラコギカエデ, ミツバウツギ, ピロウドウリノキ, ヤマブキ, コクサギなど自然生の低木類が良く繁茂している。また草本層は, とくに種類が豊富でありヒカゲスミレ, アオイスミレ, ミヤマイラクサ, ムカゴイラクサ, カノツメソウ, ヒカゲミツバ, セントウソウ, ヤブニンジン, ホウチャクソウ, クルマバソウ, ユキザサ, ウワバミソウ, ニリンソウ, レンブクソウなど地中植物(Geophyten)を含む多くの多年生草本植物や, ナライシダ, ヤマイヌワラビ, イヌワラビ, ホソバシケシダ, ヘビノネゴザ, キヨタキシダなどの羊歯植物が生育している。またオオヤマカタバミ, ヒメザゼンソウ, リュウキンカなどや岩上着生植物のピロウドシダ, イワトラノオ, イワデンダなど特記すべき種群も多数生育している。昭和35年の天然記念物指定の際の植物の調査では約150種の植物種のリストがあげられているが, 今日までの我々の植生調査の範囲内でも, すでに290種の植物種

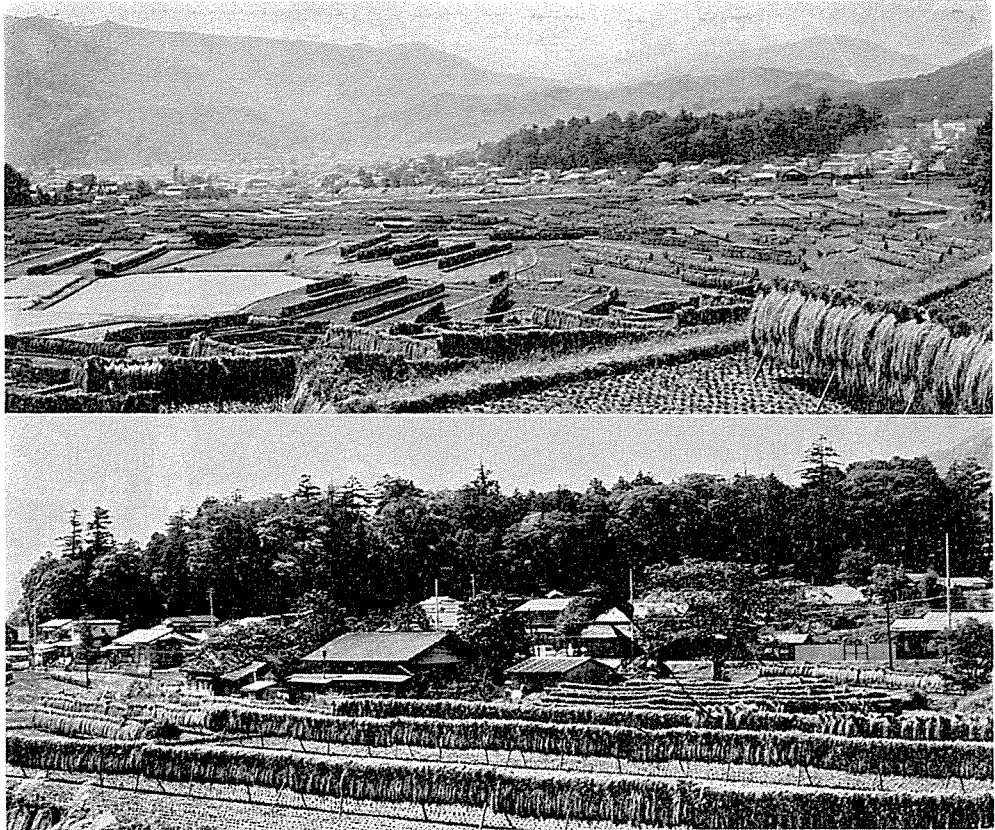
のリストを数えている。しかし、季節を通しての観察が継続されることによって、さらに多くの種群が追加されると考えられる。

この小野・矢彦神社の社叢林は植物社会学的には、その群落組成からイブキスカボーケヤキ群落(宮脇他1978)としてまとめられる。このイブキスカボーケヤキ群落はこの地方一帯の扇状地や低地の水はけの良い、富養立地上の自然植生で、小野・矢彦神社社叢林の他では箕輪村や諏訪神社上社の社叢林に類似群落の例をみることができる。しかし、この小野・矢彦社叢林が群落組



Fig. 1. 小野・矢彦神社位置図  
Die Lage des Ono-Yahiko-Shintoschreins

成的にはもっとも豊かなフロラを有している。



Phot. 1. 小野・矢彦神社社叢林の遠望  
Ferne-(oben) und Nahe-(unten) Aussicht des Ono- und Yahiko-Shintoschrein-Waldes



Phot. 2. 小野神社の社殿正面  
Ansicht des Ono-Shintoschreins